

新ICT利活用サービス創出支援事業(電子出版環境整備事業) 事業評価会

評価者のコメント

プロジェクト	電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクト
代表機関	一般社団法人日本電子書籍出版社協会
共同提案組織	学校法人東京電機大学、大日本印刷株式会社、凸版印刷株式会社、 慶昌堂印刷株式会社、豊国印刷株式会社、株式会社ボイジャー、シャープ株式会社、 シャープビジネスコンピュータソフトウェア株式会社

(1)これまでの実績に対する評価 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

- 端末の多様化の中でコンテンツ作成の促進とより多くの端末で利用できるようにするための環境整備として書籍のフォーマット変換の可能性を追求した点、またその成果を評価する。ただ、クロス変換の実験がもう少し多くなされるとなよかったのではないかと思う。
- 交換フォーマットを実際に作成したことは高く評価する。
- Openでfreeな交換フォーマットの策定とその検証が行われた点は評価できる。
- 日本の書籍印刷データの統一フォーマットが形成されていない状況において必要な研究である。
- 既存フォーマットとして広いシェアを持つドットブックとXMDFの互換性を確立することは、電子書籍の普及のための第一歩と考えられるが、実証実験によってその実現性へのメドが立ったと考えられる。これは大きな成果である。
- 利用状況調査のような、プロジェクト趣旨と無関係の事業が紛れ込んでいた。XMDFから中間フォーマットに変換し、それをXMDFに戻すといった検討に終始し、本来の目標であるはずの各種最終フォーマットへの吐き出し実験が不十分な点、評価できない。評価D
- 多様な購読端末が使われる中で、この交換フォーマット標準化の開拓は高く評価される。

(2)今後の取組に対する評価、留意点 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

- あくまでも「交換のための」中間的なフォーマットとしての洗練をめざすのか、それとも標準的なフォーマットになることを目指すのか、特にEPUBがAmazon以外の端末では使えるという状況が生じている(近いうちにAmazonの端末もEPUB対応になるようだが)なかで、今後どのような方向に開発を進めるのかがむずかしいように思う。これまでの資産を活かすという点では今回の交換フォーマットの意義は高いと考えるが、今後作られるコンテンツはつまるところ市場を支配する端末やそれで扱えるフォーマットに依ると思われるので、その中でこのフォーマットがどういう位置づけになるのか。
- 普及及びその維持、発展に対する体制作りを是非、行ってほしい。
- この交換フォーマットの利活用に対するさらなる検討をすべきである。また、変換プログラムのアップデートが継続的・持続的に行われる体制を確立することに重点をおくべきである。

- 経済効果は大きいと評価できる。この交換フォーマットが存在すれば、国会図書館の電子納本が可能になるのではないかと評価できる。共同開発を検討することが望まれる。
- 基本となる交換フォーマットを公表し、多くの参加者がさらに可能性を追求するための意見交換の場を設けて、エラー等に関する情報が共有できる状況を持続することが必要であるが、その方向に進みつつあることが確認できた。
- 普及戦略が明確でない。会議を継続することだが、それだけでこの技術が普及する保障はない。
評価D
- 今後の発展維持管理に向けて、しっかりした運営母体の構築を期待する。